



ハイナイト祈禱課題 2025年12月号

1. 復興の道を歩み出した人々を覚えて

ハマスによる大規模テロから2年が過ぎ、壊滅的な被害を受けた町々では、復興が進んでいます。ガザ国境に近い南部のコミュニティーでは、避難した住民の約90%が帰還し、さらに2500人以上が新たに移住しました。政府は再建のために、今後5年間で175億シケル（約8千億円）を投入し、今年度も住民の帰還支援を行っています。しかし、最も深刻な被害を受けた5つのキブツでは、住民たちの仮住まいが続いています。

こうした中、9月には、長く閉ざされていた学校が再開しました。南部の小学校を訪れたアメリカ大使のマイク・ハッカビー氏は、Xにこう投稿しました。「今日は、悪が勝たなかったと改めて思わされた日です。多くの子どもが、親や友人を殺害され、人質として連れ去られました。しかし、今、ハマスは壊滅状態であり、子どもたちはガザからわずか数百ヤードの場所で学び始めているのです」

北部のレバノン国境に近いキリヤット・シュモナでも、この秋、大学が2年ぶりに再開。4800人の学生たちがキャンパスに戻り、地域に活気と希望をもたらしています。1年生のドヴィルさんは、予備役としてパラシュート旅団で従軍し、戦闘で、重症を負いました。しかし、その経験が彼の人生を変えました。「社会福祉学を学ぼうとは、考えていませんでした。でもケガをして気付いた

んです。『自分がまだ生きている理由は人を助けることだ』と」。また、生命情報学を学ぶアリエルさんも、戦闘で負傷し、1年半の厳しいリハビリを乗り越えて入学しました。「今度は社会の再生に参加したい」と語ります。

民族存亡の危機を繰り返してきたイスラエルの人たちは、「Am Israel Chai（アム・イスラエル・ハイ）」イスラエルの民は、生きている！と告白してきました。しかし今は、よくこう言います。「Am Israel Kam（アム・イスラエル・カム）」——「イスラエルの民は再び立ち上がった」。ホロコーストの灰の中から立ち上がった民は、再び灰の中から立ち上がろうとしています。イスラエルの民に、神の慰めと励ましが豊かに注がれ、傷ついた町が癒やされ、回復していくように、共に祈り支えてまいりましょう。



イスラエルの民に、神の慰めと励ましが豊かに注がれ、傷ついた町が癒やされ、回復していくように！

まことに、主はシオンを慰め、そのすべての廃墟を慰めて、その荒野をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜びがあり、感謝と歌声がある。（イザヤ51:3）

- ① 誇りと希望を胸に、再出発をする一人ひとりに神の慰めと助け、励ましが豊かに注がれるように。
- ② 国の復興を導く行政のリーダーたちに天からの知恵と判断が与えられるように。
- ③ 傷ついたイスラエルの人々と町々の癒やしと回復、復興を通して、生きた神が世界に証しされていくように。

2. 日本がサイバー攻撃から守られるように

インターネットは、私たちの生活に欠かせない通信手段として発展してきました。一方で、普及から30年以上がたち、サイバー攻撃も年々、高度化しています。

攻撃リスクに特にさらされるのが上場企業です。9月にはアサヒビールが、10月にはアスクルがサイバー攻撃を受け、商品の出荷停止に追い込まれました。1カ月以上がたってもシステムを復

旧できず、手作業での対応が続き、深刻な影響が出ています。

これらの攻撃についてロシア系のハッカー集団が犯行声明を出しました。その目的は、企業が保有する個人情報や機密情報を盗み出し、金銭を要求することです。

サイバー攻撃への対処は防御するのが第一と言われます。その防御に優れた国が、アメリカ、次

いでイスラエルです。日本は防御が甘いと見られており、犯罪集団に狙われやすい国の一つです。

今まで、日本は、イスラエルとサイバーセキュリティの分野でも協力関係を推進してきました

た。ただし、イスラエルとの協力には反論する世論もあります。イスラエルとの協力関係が妨げられることなく、日本がサイバー攻撃に備えていけるよう祈りましょう。

主は正しくあられ 悪しき者の網を断ち切られた。(詩篇129:4)

- ①サイバー攻撃の対象となりやすい政府、企業、団体などが守られるように。
- ②日本とイスラエルの協力関係が祝福され、サイバーセキュリティを強化できるように。
- ③犯罪行為に手を染める人々が悔い改めに導かれ、社会に貢献する形で技術を生かしていくように。

3. ZAKA・テロ現場で働く人々への支援を覚えて

BFPは、ハマスの大規模テロで、多岐にわたる緊急支援を行いました。その一つがZAKAへの支援です。ZAKAは、テロや事故現場に駆け付け、行方不明者の捜索、遺体の収容、身元確認を行うボランティア団体です。隊員は、約4千人で、その多くは、無給で活動しています。ZAKAは、救急隊や警察、軍と連携し、時には命の危険を冒して現場に入ります。犠牲者をユダヤ教の教えに基づいて「尊厳を持って葬ること」は、大切な使命です。この戦争でBFPは、生存者や遺体の捜索用のサーチライト4台と、ドローン2台を支援しました。

ハマスの大規模テロでは、ZAKAの隊員たちが、キブツや音楽祭の虐殺現場で、昼夜を問わず働きました。その作業は極めて過酷で、隊員の多くが今も深い心の傷を抱えています。

ある隊員はこう語ります。「匂いが今も、頭の中から離れない。そして、見たものを消し去ることはできない。家族全員が殺された家から、遺体を運び出したんだ。私は男の子の遺体を抱き上げ

た。とても可愛い子だった。私にも息子がいるから父親の気持ちになってしまった。あの子の顔が今も忘れられない」

今イスラエルでは誰もがトラウマを抱えています。中でも、ZAKAのように、自身もトラウマを抱えながら、テロや災害の現場で働き続ける人たちの心のケアが急務です。膨大な必要のある中で、BFPの支援がイスラエルの必要な所に届くようお祈りください。



ZAKAのように、テロ・災害の現場で働き続ける人たちの心のケアが急務
©Spokesperson unit of ZAKA / CC BY-SA 4.0

「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——」(イザヤ40:1)

- ①想像を絶する悲惨な現場で活動した隊員たちの心と体を主が癒やしてくださるように。
- ②犠牲者の尊厳を守るために命懸けで取り組む人々を、主が守り続けてくださるように。
- ③主の御声と導きを受け取り、BFPが必要とされる支援を行い続けることができるように。

「ハインイトソング」

視聴・譜面のダウンロード



<https://www.bfpj.org/music/>

「ハイメール通信」

月刊オーブライフ誌「いのちの祈り」からピックアップをお届けします(毎週月曜日)



<https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/>



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL:03-5969-9656 FAX:03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハインイトに関するお問い合わせ:chainight@bfpj.org